

## 日本放射線影響学会第 66 回大会の開催にあたって

日本放射線影響学会第 66 回大会を、本年 11 月 6 日（月）～ 8 日（水）の 3 日間にわたり、東京・台場にて開催させていただくことになりました。量子科学技術研究開発機構が担当する開催は、第 60 回大会（2017 年、大会長：明石真言先生）以来、6 年ぶりになります。この度、皆様の交流の場を東京お台場にて提供させていただけることを、第 66 回大会開催に関わる関係者一同、大変光栄に思います。

さて、本年は日本で初めて開催される国際放射線防護委員会（ICRP）国際シンポジウムと同時開催、また、日本保健物理学会第 56 回研究発表会とも連続同所開催となる特別な大会となります。1895 年 X 線の発見や 1896 年の放射能発見後、放射線の生体影響が明らかになりこれを防護するために 1928 年に ICRP により最初の勧告が発刊されました。それ以来 ICRP の勧告は、世界各国での放射線防護体系の基盤となっております。そして、その勧告作成の基礎となるのは、まさしく私たち放射線影響研究者の発信する研究成果となります。

第 66 回大会では、「放射線の真の理解 ～社会との調和と共生を目指して～」をテーマに掲げました。これには放射線影響の真の理解を追求すると共に、その成果を社会にわかりやすく提供していくことを目指すという思いが込められています。特に東京電力福島第一原子力発電所事故以降高まってきた放射線の影響に関する社会の関心に対して、科学リテラシーとして研究成果を提供したいと考えております。

さて、現在の社会状況は、新型コロナウイルス感染によるパンデミックから脱して、コロナと共に暮らしていく新しい生活が始まっております。本大会では、コロナの状況も注視しつつ、お互いのコミュニケーションの場を大切に、同年代のみならず若手とベテランとの有意義な交流の場を提供したいと準備しております。現地開催に加え一部ハイブリッド形式を取り入れることで、様々な研究環境の会員が継続して大会に参加できるよう準備を進めて参ります。私たち実行委員一同、東京お台場で多数の皆様とお目にかかれるようご参加を心よりお待ちしております。

日本放射線影響学会第 66 回大会  
大会長 柿沼 志津子

## Welcome Message

Welcome to the 66<sup>th</sup> Annual Meeting of the Japanese Radiation Research Society (JRRS 66)!

The Meeting will be held at the 29<sup>th</sup> Floor Conference Hall, Grand Nikko Tokyo Daiba, 2-6-1 Daiba, Minato-ku, Tokyo, Japan, from Monday, November 6 to Wednesday, November 8, 2023.

JRRS started in 1959 with the main purpose of “contributing to the advancement of various sciences related to radiation and its effects on the human body and the environment”. The first meeting of JRRS was held in Tokyo, and this year's Tokyo meeting will be the 66<sup>th</sup>.

The conference will be held in three meeting rooms and include symposia, workshops, oral and poster presentations, luncheon seminars, and evening seminars related, but not limited, to the following areas:

- Biological effects of radiation
- Radiation therapy, including particle therapy and targeted radioisotope therapy
- Radiation carcinogenesis
- Radiation epidemiology, including epidemiological studies of atomic bomb survivors
- Effects of radiation on the environment
- Radiation measurement and dosimetry

Symposia will include two satellite meetings of the 7<sup>th</sup> International Symposium on the System of Radiological Protection (International Commission on Radiological Protection (ICRP) 2023), which will be held concurrently. Also, the 56<sup>th</sup> Meeting of the Japanese Health Physics Society (JHPS 56) will be consecutively held at the same venue. The poster session will be held jointly with ICRP 2023 and JHPS 56. A part of the sessions will be streamed online. With some exceptions, presentations will be given in English in the Main Room.

In addition, JRRS 66 will give the Best Presentation Awards to young researchers who have made excellent presentations to encourage their further development as researchers.

We look forward to welcoming all researchers who are interested in radiation research fields, including ICRP 2023 participants, to JRRS 66.

Shizuko Kakinuma, Ph.D.  
President, the 66<sup>th</sup> Annual Meeting of the  
Japanese Radiation Research Society

## 閉会の挨拶

日本放射線影響学会第 66 回大会は、全日程を無事終了いたしました。本大会は ICRP2023 との同時開催となりましたが、教育講演 1 セッション、シンポジウム 5 セッション（うち ICRP サテライトシンポジウム 2 セッション）、ワークショップ 5 セッション、一般口演 61 題、ポスター発表 100 題（ICRP2023 との合同）、以上 212 題の発表と、ランチョンセミナー 3 セッション、イブニングセミナー 1 セッション、イブニングセッション 1 セッションが行われ、総参加者数は 404 名でした。一部ハイブリットの WEB 配信や保育の取組、短い時間でしたが情報交歓会を行いました。

新型コロナウイルス感染による制限解除後初の対面開催となり、多くの方に参加者していただき意欲的な発表と活発な討論が行われました。

開催に際しまして、皆様の多大なるご支援とご協力を賜りましたことに厚くお礼申し上げます。末筆ではございますが、皆様の益々のご活躍とご健勝を祈念いたします。

柿沼志津子

日本放射線影響学会第 66 回大会大会長  
量子科学技術研究開発機構 量子生命・医学部門  
放射線医学研究所 放射線影響研究部